GEO-COMMUNICATION Working Paper No.3
December 28, 2012 ISSN 2186-9820

朝市と定期市
—冬のバングラデシュ —

溝口　常俊
名古屋大学環境学研究科
土屋　純
宮城学院女子大学

第１章　ビルパラ朝市＆定期市

ビルパラ日曜市はグラムバングラから一番近く、この15年名古屋大学の学生さん達がグラムバングラに来るたびに必ず訪れた定期市である。今回の私の滞在は３泊しかないという限られた日程であったが、運よく市日にあたったので、調査に入ることにした。調査内容は、①売り手を示す市図を作成すること。②売り手を20～30人選んで、名前、年齢、性別、出身村、販売品目、純益、1週間の販売行動、家族構成などを聞くこと、③常設店舗の配置図、そして新たに④買い手の出身村、⑤朝市の売り手と買い手、であった。①と⑤は溝口が、②はルトファーが、③は土屋が、④はシャキールが担当となって手分けして行った。

写真１　鶏の頸動脈を切って三角錐に入れる

写真２　ゆでて取り出す

写真３　遠心分離機にかけて取り出す

午前９時にビルパラに着。東側の入口でいきなり残酷なシーンに遭遇した。元気な鶏２羽がのどを切られ、逆三角錐の入れ物に首を突っ込まれ（写真１）、滴る血は犬が舐め、息の根が止まったころにつまみ出され、熱湯の中に突っ込まれ（写真２）、最後に大きな円筒形の遠心分離機に放り込まれた。この間約３分。遠心分離機から取り出された姿は羽根ひとつないつるつるのロースターニワトリに出来上がっていた（写真３）。

さて、市サイトの中には、数名の野菜売り、数名の魚売りのほかに多数のミルク売りが並んでいた（写真４）。みな各家で絞ったミルクをペットボトルに入れて持ってきている。1kg30Tk〜40Tkだそうだ。41名全員に出身村を聞き取った。みな徒歩30分以内の近在の人たちで毎日売りに来る人が多かった。正確な村名は再確認せねばならないが、多い順に並べると、１）ウッタルカジラッパラ12名、２）アダジャン８名、３）ボルパラ５名、４）ポッシェンパラ４名、５）ビルパラ２名、６）アダバリ、プルボパラ、バックパラ、ドッキンパラ各１名、であった。これらを仲買人が買い付けに来ていた。またビルパラ市場内の常設店舗でミスティー（ミルク菓子）製造件販売の店が1日240kg購入していた。

写真４ ミルク売り

その店でミスティーを食べてから、そのまま市の全貌が見渡せる椅子に座って市へ買い物に来た全女性を数え、その行動を観察した。10時半から朝市の終わる１時までに10代4人、20代12人、30代17人、40代13人、50代12人、60代8人であった。年齢は見た目の年齢で正確さを欠くが、それほどずれてはいないであろう。というか、総計で71名も女性

が買い物に来ていたことは、20年前の調査時（女性の買い手はほとんどいなかった）では考えられなかったことで、この変化には驚かざるを得ない。

写真５　野菜売りの前の女性客

写真６ 魚売り前の女性客

次に女性の買い物行動に注目してみよう。野菜売りへ11人（写真５)、古着売りへ５人、揚げ菓子売りへ３人、小麦売りへ１人、魚売りへ１人、常設店舗の薬屋へ３人、雑貨店へ３人、ミスティー（甘い菓子）点へ２人、衣料店へ１人。そして組み合わせとして、魚売りから古着売りへ５人（写真６）、魚売りから野菜売りへ１人、魚売りから雑貨店へ１人、揚げ菓子売りから薬屋へ１人、雑貨店でホウキを買ってから野菜売りへ１人、という行動が観察できた。

朝市から定期市の午後市（ピークは３時～４時）へは、ミルク売りが姿を消したのが最大の特色であるが、その他の点では、午後1時過ぎから次々と様々な業種の売り手が、徒歩、自転車、バン、シンジ、トラックなどで現れ始め、3時近くになると歩行困難なほどに賑わいをみせる。ところが、午前中にあれほど目立った女性の買い物客がほとんどいなかったことが、朝市と通常の定期市との大きな違いといえるであろう。

市図の詳細は後日示すが、ここでは野菜売りを取り出し、その販売品目を多かった順に示そう。①チリ22、②玉ねぎ21、③ショウガ20、④ニンニク19、⑤ジャガイモ17、⑥大根15、⑦エンドウ9、⑧トウガン6、⑨バナナ6、⑩コリアンダー5、ナス5、キャベツ5、⑬ネギ3、⑭カリフラワー2、パパイヤ2、ソンボ2、サトイモ2、⑱レモン、ココナツ、紫草、キライ。１位から４位までのチリ、玉ねぎ、ショウガ、ニンニクは香辛料としての野菜で年中市場から無くなることはない。季節の野菜として大根が目立っていたといえよう。

第２章　チョーラスター朝市

グラムバングラから南へ徒歩20分のチョーラスター朝市も、名古屋大学の学生さん達がグラムバングラに来るたびに必ず訪れた朝市である。昨日調査をする予定であったが、先にアロンギ宅に寄ってしまったがために時間がとれなく、今朝再度でかけ直した。7時15分着。路上商人が店開きを始めたところであった。30分ほどぶらつき、45分から買い手にインタビューを始めた。名前、年齢、性別、出身村、何を買ったか、いくら使ったか、市への訪問頻度、の7項目を聞いた。そして、最初の2人は逃してしまったが、3人目からは全員の写真を撮った。チョウは「４」、ラスターは「道」を意味するがごとく、この朝市は4辻になっている。そこで東西南北の各出入り口に張り付き10人ずつ購入帰りのお客を捉まえた。その結果が表１である。

昨日のビルパラ朝市の女性の多さに気をよくしていたので、ここチョーラスターの朝市でも多数の女性買い物客を期待していたのだが、それほどでもなかった。でも2人の女性にインタビューでき、No.21の女性は旦那がダッカで仕事をしている（写真７）、No.42

の女性は父親が中東ドバイへ出稼ぎに行っているという（写真８）。No.29の11歳の少年は大根と魚を購入していた（写真９）。

首都ダッカは膨張しつつあるし、中東をはじめとする海外出稼ぎはこの20年来盛んである。家族の中で働き手の男性が不在故、女性が外出して買い物に出かけなければならなくなった、ということは間違いない。超混雑する午後の定期市よりも朝市に女性が顔を出しやすいといえよう。

表１　チョーラスター朝市

No.	名前	性別	年齢	出身村	購入品	値段(Tk)	訪問頻度
1	?	M	35	ブルボバラ	魚	350	毎朝
2	?	M	30	ブルボバラ	トウガン、大根、魚	250	週2回
3	?	M	50	アダバリ	砂糖	100	毎朝
4	ミンハス	M	42	アダバリ	小麦粉、大根	47	毎朝
5	シュビクール	M	22	シュビクール	トウガン、ダタ	70	毎朝
6	アチック	M	27	アダバリ	ネギ、oil、玉ねぎ	300	毎朝
7	ノーズル　イスラム	M	28	ブルボバラ	ジャガイモ、ミルク、砂糖、衣服	500	毎朝
8	ショフィック	M	70	ブルボバラ	ミルク、チリ、魚	300	毎朝
9	ハベシュミア	M	40	ショナルチョル	ミルク、チリ、玉ねぎ	35	毎朝
10	サキウル　イスラム	M	13	グラムマハリ	大根、チリ	20	毎朝
11	ドラル	M	40	アダバリ	小麦粉32、魚70	102	毎朝
12	マスド	M	30	アダバリ	魚	130	毎朝
13	モジブル　ラーマン	M	65	アダバリ	エンドウ、チリ、魚	60	毎朝
14	ナティ	M	50	アダバリ	魚、ナス、ダル	100	毎朝
15	ジョナパリ	M	35	アダバリ	ネギ、カリフラワー、綿糸	60	毎朝
16	コッドス	M	35	アダバリ	トウガン、ターメリック	30	毎朝
17	アッサウディ	M	50	アダバリ	トウガン	25	毎朝
18	ルベル	M	23	アダバリ	魚	40	毎朝
19	ノビ	M	20	ブルボバラ	大根	20	毎朝
20	バブル	M	65	アダバリ	大根、ドニア	15	毎朝
21	モルジナ	F	40	アダバリ	魚	70	時々
22	ラッセル	M	14	ショナルチョル	塩、魚、野菜	80	毎朝
23	ムストファ	M	34	ドッキンパラ	レモン25、葉40、チキン510	575	今朝のみ
24	バチャ	M	35	アダバリ	ジャガイモ、チリ	70	毎朝
25	アブドゥルマンナム	M	40	アダバリ	ジャガイモ、玉ねぎ、魚	70	毎朝
26	アブルカシ	M	55	ショナルチョル	パーン、煙草	30	毎朝
27	ハビフ　ラーマン	M	35	ショナルチョル	ニンニク、大根、塩、魚、レモン	400	毎朝
28	スルハブビーン	M	45	ショナルチョル	大根、パーン、魚、ミルク、ジャガイモ	400	毎朝
29	ラジブミア	M	11	ショナルチョル	大根、魚	200	毎朝
30	アブルハシェン	M	40	ショナルチョル	コラ、魚	70	毎朝
31	アブルフセイン	M	70	ショナルチョル	大根、パーン、煙草、チリ、砂糖	140	毎朝
32	タイズティン	M	60	アダバリ	魚30、トウガン30	60	毎朝
33	ジョシムディン	M	50	バックーラ	大根10、魚90	100	毎朝
34	サッビ	M	12	バックーラ	エンドウ20、魚60	80	時々
35	ロメショチョンドモンドール	M	80	バックーラ	大根、魚、ジャガイモ、oil、大豆	118	毎朝
36	バブル	M	30	アダバリ	魚	20	毎朝
37	イブラヒム	M	43	バックーラ	肥料155(7.5kg)、魚130	285	毎朝
38	ハクドラハイ	M	55	アダバリ	魚20	20	毎朝
39	シャマルアモン	M	35	アダバリ	魚15、ミルク20、ジャガイモ20	55	毎朝
40	レブ	M	60	アダバリ	玉ねぎ、チリ	50	毎朝
41	スハーハブウッディン	M	60	アダバリ	米(13kg)	400	毎朝
42	ムクティ	F	10	ブルボバラ	塩、ジンジャー、エラーチ	80	時々

写真７　買い手No.21

写真８　買い手No.42

さて、買い物の中身をみると、その日の食卓に上る野菜、香辛料、魚がほとんどで、市近在（いずれも徒歩30分圏内）の村人が毎日買いに来ていることがわかる。購入額も42人の平均が147Tk（=147円）という小額であった。こうした朝市がバシャイル郡、ミルザプール郡で（おそらくバングラデシュの農村全域でも）増えつつある。朝市が冷蔵庫代わりになっている。小売小商圏の復活といってよい。

写真９　買い手No.29

村での商品流通のもう一つの大きな変化は一戸建てのドカン（常設店舗）の増加である。この2、3年にカジラッパラ集落（450戸）内だけでも倍増している（グラムバングラから徒歩10分圏内だけで、4店から8店）。昨年来たときには小学校の運動場・クリケット場に１店、そしてこの９月にわれらがアシスタントのベラルの店がオープンした（写真10）。

写真10　ベラルのドカン

中に座るベラル君（写真11）。中に入って外をみたのが写真12。棚からノート、石鹸、クリーム、お菓子を取り出し（写真13）、値段を聞いた。全部で105Tk（105円）。無理やりオープンのお祝いだからといって200Tk渡したが、申し訳ないくらいの小額だ。これからグラムバングラに出かけた際は、ここで大量にお土産を買うことにしよう。

写真11　店主ベラル

仕入れは近くのサワリバザールか国道沿いのナティアパラからだそうだ。どれだけ収入がみこめるのか、あまり期待できそうにないが、ベラルにきちんと経営収支簿を付け

てもらい詳細な分析をすることにしたい。彼なら見せてくれるでしょう。

写真12　店の中から見た風景

写真13　私が購入した品物

第３章　ポッシェンパラ朝市

昨晩カーンさんから電話があり、11日はハルタルで地方も全面交通ストライキになるためミルザプールへの移動は1日のばしたほうがいいとのこと。よって、本日11日は急きょ予定を変更してグラムバングラからJinok川のカジラッパラ橋（カーンさんの資金で建設：写真14）を渡って5分のところにあるポッシェンパラ朝市に出かけることにした。道路の両側にある20軒ほどの常設店舗の西の端に10名足らずの売り手が来るだけの小さな朝市だ（写真15）。野菜売りが６人、魚売りが３人、鶏売りが１人であった。野菜の全種類は、ジャガイモ、ネギ、エンドウ、カリフラワー、ナス、トウガン、コリアンダー、トマト、キライ、ゴーヤ、キャベツ、タマネギ、サトイモ、ショウガ、大根、バナナ、赤トウガラシ、青トウガラシで、これだけあれば近在の住民の食卓に不足することはなかろう。

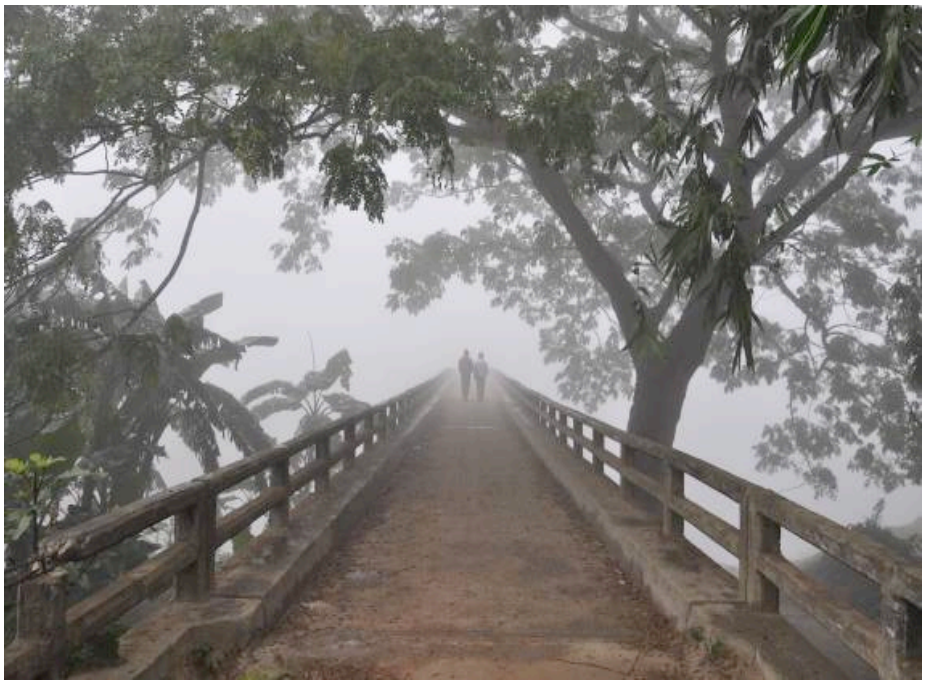

写真14　カーンさん橋を渡るショジと土屋氏

調査は10分で終わり、あとはハル（アロンギの弟）の店（写真16）を冷やかして帰宅する。９時で１日の仕事が終わるのはなんとも気分がいい。終日部屋にこもって資料整理と読書に明け暮れた。テレビもラジオもない。車道がないので外も静か。子供たちの遊び声しか聞こえない。日が沈むと犬の遠吠え合唱が始まるが、そのなかに高音で長伸びする声があった。ショジによるとキツネだそうだ。

写真15　ポッションパラ朝市

写真16　ハルの店

20歳になったショジは日本語習得に熱心だ。食事の前後に質問されまくっている。質問されて初めて日本語表現のむずかしさを感じている。May I come in?　なら「入ってい

いですか」でまだいいが、Go out はどうか。「出ていけ」では失礼だから、please がなくとも「出ていってください」となろうか。丁寧語の使い分けがむずかしい。Come againは「また来てください」だが、女性なら「また来てね」がいいかも、と言い出したらややこしくなってしまった。最後は名古屋弁「また来てちょうだぁー」。

朝市帰りに「岸辺のアルバム」撮影をおこなった。今回のバングラ訪問は、科研B「洪水常襲地における21世紀型水環境社会の構築」の取材も兼ねていたからである。

凄まじくえぐり取られている（写真17、18、19)。カーンさんの橋からビルバラ市場までの約1km、Jinko川の左岸は軒並み浸食され、河川沿いの家々はことごとく流された。その数はこの数年間に31軒に上った（Uttar kazirapara：Sikandar Ali Khan家他25戸、Moddo Kazirapara：Munnaf Miah家他４戸、Dokkhin kazirapara：Adom Ali Khan家他２戸。われわれのアシスタントの１人シャキール氏の聞き取りによる）。

写真17　河川浸食（右は大根畑）

写真18　河川浸食（危機的家屋）

写真19　河川浸食３（カマドが崩落直前）

家を流された彼らは命を落としたのか？いや、洪水による犠牲者はゼロであった。2年前にルトファーとの聞き取りの際に、自分の家が流されていくのを見ていたという人が多かった。要するに、浸食される時期を察知し、その１、２年前に移住をしていたのである。移住する際の苦労、移住先での新生活の苦労など、現在調査中である。

第４章　バタルガータ水曜市

午前10時にグラムバングラに別れをつげ、ミルザプールのルトファー宅に向かう。シャミンが国道まで、ショジがルトファー宅まで付き添ってくれた。ルトファー宅は昨号のBBで紹介したとおり。昼食をとってから、ミルザプール郡北部の郡境にあるバタルガータ水曜市に行くことにした。ミルザプールから直線距離では８kmだが、車が通行できる道路がないため、東へ６km走り、北に折れて８km、そして西に７kmと逆コの字のルートで出かけた。CNG車で丁度1時間要し、午後2時40分に市場に到着した。

いつものように土屋氏が常設店舗を担当、私が市図（図１および写真20・21）の作成、ルトファーが市商人の何人かから詳細な聞き取り、という分担で4時20分まで調査を行った。この市は政府の所有地で市税徴収人が年間16万Tkを納めるという。露店の専門商人は年間1000Tk、店舗業者は1500Tkが相場だそうだ。この市は水曜と日曜の週２回開催されるが、水曜日が大規模で日曜日が小規模なので、所場代として水曜日は20Tk、日

曜日は10Tk払うそうだ。

さて市図を描くにあたって、業種別に下記の分類（表２）をして、たとえば野菜は○印、精米は□印、竹製品はB印のように記号を付けて図示することにしている。

表２　定期市商品分類

大分類	中分類	小分類
A 食料と	A01 野菜	
原材料	A02 果物	
	A03 穀物	A031精米、A032玄米、A033小麦粉、A034豆
	A04 マスタード	
	A05 ジュート	
	A06 香辛料	A61塩、A062ヤシ粗糖、A063パーン、A064タバコ、A065スパイス
B 家畜	A07 魚	A071鮮魚、A072干魚
	A08 肉・卵	A081肉、A082卵
C 加工品	A09 材木	A091材木、A092薪
	A10 竹	
	B01 家畜	B011牛、B012ヤギ
	B02 家禽	B021鶏、B022アヒル、B023鳩
	C01 菓子	C011菓子、C012揚げ菓子、C013アイス、C014ヨーグルト
	C02 衣類	C021ルンギ、C022サリー、C023既成服、C024ベドカバー、C025古着
	C03 文房具	C031文房具、C032本、C033ポスター
	C04 装飾品	
	C05 土器	
	C06 竹製品	C061竹製品、C062ヤシ製品、C063木製品
	C07 鉄製品	
	C08 燃料	C081オイル、C082炭
	C09 薬	C091西洋薬、C092漢方薬
	C10 肥料	
	C11 履物	
	C12 ロープ	
D サービス		D01床屋、D02鍛冶屋、D03仕立屋、D04茶店、D05金細工師、
		D06自転車修理、D07電気製品修理、D08金物修理、D09洗濯屋、
		D10靴直し、D11歯医者、D12蛇・蛭使い
E その他		E01ギャンブル、E02物乞い

注：赤字は今回(2012.12)追加分。

写真20（図１中、下の矢印）
　ジェラピー（甘揚げ菓子）を頭に乗せて自転車を漕ぐ青年

写真21（図１中、上の矢印）
　床屋は市サイトのはずれで営業

そして市図を作成し、業種別に市商人数を数えてみた。26年前に調査した時の商人数も比較のため載せて示したのが表３である。

表３　パタルガータ水曜市の売り手商人構成

品目	2012.12	1986.2	分類番号
野菜	42	215	A01
果物	12	40	A02
穀物	15	175	A03
マスタードシード		110	A04
ジュート		75	A05
嗜好品	42	87	A06
魚	19	39	A07
肉・卵	1	1	A08
木材		13	A09
竹		35	A10
家禽		9	B02
菓子	17	67	C011
衣類	17	54	C02
文房具・雑貨	1	22	C031
土器	3	10	C05
竹製品	6	24	C061
鎌など鍛冶製品	1		C07
燃料	5	11	C081
薬	1	8	C09
肥料		3	C10
履物		6	C11
ロープ	5		C12
床屋	5	17	D01
鍛冶屋	1		D02
仕立て屋	3		D03
電気製品修理	3		D04
金物修理		2	D05
靴直し	4		D 10
	203	963	

表３で、26年前の商人数と比べると驚くべき激減である。総数で963人から203人に減っている。マスタードシードは2月に季節限定で出回るので12月には出てこない。これはいいとして、その他の品目の激減には驚かされる。野菜売りは215人から42人に減っているし、穀物売りも175人から15人になっている。衣類、お菓子売りの落ち込みもすごい。

これらの減少の背景には、図１に示した常設店舗の増加と毎日開かれる朝市の増加によるところが大きい。

センサス上の農村人口は漸増傾向にある（詳しくは後日確認）が、20代から40代の男性が20年前に比べて半減しているのではないか。どんな寒村にいっても半数以上の男性が海外に出稼ぎにいっている。その中には農業をしていて、自作農作物を売りに来ている人達が多くいたはずである。今回の野菜売りの中で、単品販売者が少なくなっており、複数野菜を販売する専門商人化した売り手が増えているのがその結果であり、野菜売り販売者数の激減につながっていると思われる。

図１　パタルガータ市の常設店舗配置図（土屋純作成：矢印は写真の位置を示す）

第５章　カグティア木曜市

12月13日、今回滞在中の最後の目的地をミルザプール郡最南端にあるカグティア木曜市にした。昨日の最北端のパガルガータ市までと直線距離では同じ８kmだが、カグティアへは道路事情がよく昨日の半分の30分で到着した。26年前に訪ねた道筋はほぼ同じだったが、道路は舗装され、水路で分断されていた何か所かには、いずれも橋が掛ってすんなりと通過できた。ミルザプールを東西に走る国道と、カグティア南部２km地点のアリシャを東西に走る国道とを結ぶ路筋にあたり随分と交通量が増えているという。途中何カ所かにドカンが新しくでき、それぞれの茶店でくつろぐ人が目についた。

今回１週間滞在していて、本当に目に着いたのが、ドカンの増加とロードサイドの茶店でくつろぎおしゃべりする人の多さである。この８月にプラハ、ウイーンの街中でオープンカフェの居心地のよさを体感したが、バングラでもわれわれ外の人が中に入ってもくつろげる。なんせチャイ（紅茶）が１杯３Tk（３円）なんだから。日本では屋台はいかがわしい場所として近代都市計画から排除された歴史があるが、オープンカフェならよかろう。これからの都市計画に、公衆トイレとオープンカフェを是非盛り込んでほしいと思う。

表４　カグティア木曜市の売り手商人構成

表1 Khaguti a木曜市の売り手商人構成

品目	2012.12.13	1986.2.6	分類番号
野菜	101	72	A01
果物	15	3	A02
穀物	43	107	A03
菜種	0	172	A04
ジュート	1	0	A05
嗜好品・香辛料	93	100	A06
魚	18	24	A07
卵	11	1	A08
家禽	14	35	B02
菓子	22	19	C01
衣類	20	78	C02
文房具	1	0	C03
装飾品	4	0	C04
土器	11	10	C05
竹製品	20	16	C06
燃料	6	21	C08
薬	3	0	C09
肥料	1	11	C10
履物	4	2	C11
ロープ	4	0	C12
床屋	9	0	D01
鍛冶屋	11	5	D02
仕立て屋	4	9	D03
電気製品修理	4	0	D07
金物修理	4	0	D08
歯医者	1	0	D13
物乞い	4	0	E02
合計	429	685	

さて、午後2時10分にカグティアの本調査開始。土屋氏が常設店舗、ルトファーがインテンシブな商人調査、私が市マップの作製に取り掛かった。思ったより市商人の数が多く、全商人の居場所を地図に落とすには随分と時間がかかった。429人の商人を図示し終えたのは午後4時丁度であった。商人数を業種別に集計したのが表４である。そこには比較のために1986年2月6日に行った調査結果を合わせて載せておいた。この表だけを見ると、256人も減少しているではないか、と思うが、他の定期市が総じて1/3~1/4に激減していることを考えると、いまだに定期市の依存度が極めて高いといえよう。1985年2月調査

時の菜種（マスタードシード）売り172人が0人になっていたので、その分の減少と穀物売りの減少(107人だったのが43人に)と衣類（78→20人）、燃料（21→6人）、肥料（11→1人）を除けば、他の品目では、それほど減少は見られず、逆に、野菜売りが増えたことを筆頭に、果物売り、菓子売りなど増加しているのもあることを重視すれば、この市の重要性は26年前から変わっていないといえる。

ここでは、バングラの定期市では初見の、珍しい歯医者の治療風景をお見せしよう（写真22・23）。シーツにズラーっと並んだペンチ類。キョトンと座った4，5歳の女の子の虫歯治療が始まった。医師は汚い手でペースト状の石灰を練り、それを穴のあいた奥歯に詰め込んだ。この間約3分。少女は泣きもせず、治療後はおじいさんに手を引かれて市場の中に消えていった。

写真22　市場の歯医者

写真23　虫歯治療

今後の定期市研究で、市場の中のサービス業を考えている。床屋、鍛冶屋については少々データを集め出してはいるが、薬屋と医療行為にも注目していきたい。薬屋については近代的な西洋医薬品を売るのもいれば、薬草売りや鹿、サソリなどの動物薬売りもいる。ネズミ捕り薬も売れているようだ。蛭を瓶に入れて何かしら叫んでいる者もいる。時に魔術師的な人も現れる。その中で、今回歯医者に出会った。次回バングラ訪問の際は、彼に会うためにカグティアへ出かけてみようと思う。

第６章　デオハタ朝市

12月14日(金)、ミルザプールのルトファー宅から午後1時にダッカ、エレファントロードのカーンさん宅にもどる日である。午前中に時間がとれたので、ミルザプールから車で10分の国道沿いのデオハタに行くことにした。ここはミルザプールと同じ金曜日が市日であり、市のピークは午後3時過ぎなのだが、朝市も併設されているところなので見学に出かけた。大規模なので調査はやめて見学を楽しんだ。写真だけは何枚か載せておこう。

写真24はルトファー宅からみた夜明け。グラムバングラを含め田舎で6泊したが、毎朝霧であった。

写真24　ルトファー宅での朝日

写真25はデオハタ朝市で再会した野菜売り商人。彼はわれわれの通訳の1人のミトさんの旦那さんで、今年の3月16日に彼らの新居にお邪魔した時に知り合った方である。その

際、中東ドバイへの出稼ぎ帰りであることを聞き、帰国後まじめに市商人として働いていることを知って感心した人である。というのは、出稼ぎ帰りの大半は、バングラ帰国後に自国で働いても稼ぎが激減するので、働こうとせず、ブラブラしている人が多いからである。市商人の稼ぎは頑張っても1日数百円にしかならない。そんな中で、彼はくさりもせず働いていたのである。その彼が、3月とは売り場は10mほど東に移動していたものの野菜売りをしていたのである。ルトファーには市商人のインテンシブ調査で1週間の販売行動（どこの市へ行って販売するのか）を聞いてもらっているが、その人の仕事の履歴をもう少し詳しく聞くことにしようと思った。人それぞれに違った人生があるので、どんな答えが返ってくるか楽しみではある。

写真25　デオハタ朝市で野菜売りと再会

写真26　朝市でのチャイブレイク

写真26は定期市調査の通訳兼アシスタントであるルトファー（左）とシャキール。ルトファーは26年前から継続して毎回手伝っていただいている。シャキールは数年前から名大の学生さん達の手伝いをしていただいている。2人とも非常に有能で、こちらがお願いした以上の成果を上げて報告してくれている。朝市の茶店でいただくチャイは格別の味がする。シャキールが飲んでいるのはアダチャ（ジンジャー紅茶）で、１杯３Tk（３円）。

写真27は市の守護神カーリー。シバ神の奥さんで、旦那シバを踏みつけていることからもわかるように、怒ると誰をも寄せ付けない怖さがある。こんな神様を味方にすれば怖いものなしで、悪魔をもやっつける。ベンガルのヒンドゥー教徒はカーリー大好きで、町にも市場にも、そしてバリ（屋敷地）にも祀っている。日本のメディアでは宗教対立しかニュースにならないのか、モスクかヒンドゥー寺院の地かでの聖地争いしか取り上げられない。しかし、イスラム教徒８割の国で、マイノリティのヒンドゥー教徒の女神像が公共の場としての市場に、イスラム教徒がそれを妨害することなく、祀られている。市場とは、そうした異教徒を認め、貧富の差、社会身分差（バラモン～不可触民）をもなくす空間である。経済的な交換の場だけでない市場の機能を今後強調していきたいと思っている。

写真27　カーリー女神

写真28は第１章で紹介したゆでた鶏の毛をむしり取る分離器である。そこでは装置の中を覗くことはできなかったが、ここでは蓋が開けてあったのでよくみることができた。数センチの釘状の突起が円筒容器の下からも横からも付き出ている。こんな中に鶏

が入れられガタガタ刺激を与えられたら羽がむしられるだけでなく、体も身もバラバラに砕かれそうだが、そこからは羽だけむし採られた鶏が出てくる。不思議だ。

写真28　ゆで鶏の羽根取り装置

第７章　土屋による調査（12月14日～20日）

1. ジャムルキ土曜市

12月14日（金）のデオハタの朝市見学（第５章）で溝口の定期市調査は終わったが、定期市調査はバングラに残った土屋の手によって続けられていた。その報告が現地から寄せられた。「今日の調査報告（ジャムルキ土曜市）です。市場商人の数は355名でした。1986年が1874名ですから、激減です。マスタードシード（29）、ジュート（180）が無いことを考慮しても、この減少傾向を理解しておく必要があると思います。」

以下は土屋による報告である。

市場商人の減少傾向についてルトファーは次のように考えた。

・野菜（300→84）については、定期市への依存度が低くなったためではないか。現在は道路がよくなって地元の定期市以外にも出荷できるし、毎日開かれる朝市で販売する方が手軽だから。

・家禽（315→37）については、鶏の生産が人口増加に追いついていないから。各家庭で鶏を飼っているけどその多くが自家消費となり、市場に出てこなくなっているのではないか。

・穀物（171→14）については、ドカンが増えたためでないか。このように、商品毎に理由がありそうだ。

ルトファーは買い物客へインタビューし、16名の情報を得ることができた（表５）。

表５　ジャムルキ土曜市の買い手

No.	年齢	バリ	職業	移動距離（分）	購入アイテム	購入金額	合計	来訪頻度(
1	45	Habla Daukhhin	農民	40	鶏2	200*2	400	1～2
2	45	Patkhaguri	農民	60	カリフラワー、チリ、菓子、砂糖	25, 10, 30, 100	165	2～3
3	13	Jamurki	学生	10	魚、カリフラワー、ナス、薬、オイルl	105, 30, 20, 118, 30	303	3～4
4	45	Dukhlahati	農民	60	大根、服、ジャガイモ、グル	15, 110, 60, 120	305	1～2
5	60	Pakulla	卸	10	土器、グル、タマネギ、ショウガ、カリフラワー、菓子、バナナ	45, 75, 46, 18, 30, 23, 15	252	3～4
6	35	Katora	農民	40	タマネギ、トマト、魚、	20, 20, 60	100	3～4
7	40	Jamurki	農民	20	タマネギ、バナナ、Dalim（果物）	20, 20, 50	90	2～3
8	65	Borni	竹職人	30	グル、菓子	90, 20	110	1～2
9	13	Karail	学生	45	大根、魚、カリフラワー、靴修理、オイル、タバコ、菓子、タマネギ、ターメリック、にんにく	20, 60, 35, 30, 120, 45, 10, 46, 15, 30	411	3～4
10	50	Baniara	軍人（退職）	50	グリーンチリ、種、豆	20, 250, 80	350	1～2
11	12	Jamurki	学生	10	バナナ、大根、タマネギ、ビーテルナッツ、ショウガ、グリーンチリ、	20, 12, 48, 35, 20, 102	237	every time
12	12	Jamurki	学生(売り手)	15	大根、ジャガイモ、塩、コリアンダー、バナナ	10, 30, 30, 5, 20	95	every time
13	65	Jamurki	農民	15	ビーテルリーフ、グル、リンゴ、グリーンチリ	80, 60, 40, 10	190	every time
14	45	Jamurki	農民	10	大根、バナナ、タマネギ、カリフラワー、グリーンチリ、Dalim（果物）、土器	15, 15, 10, 25, 10, 48, 10	133	every time
15	48	Kadim Dhalla	農民	30	鶏、タマネギ、魚、	220, 30, 70	320	2～3
16	68	Patkhaguri	農民	60	ハト、タマネギ、菓子	175, 15, 22	212	3～4

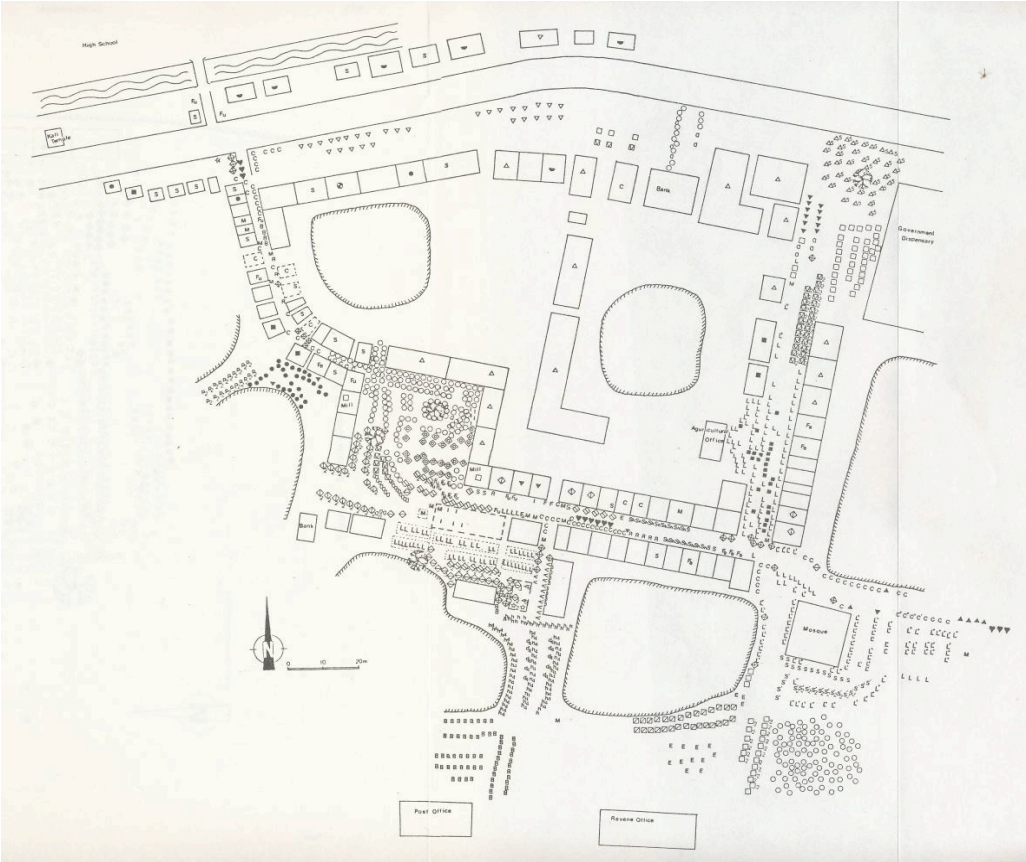

図２　ジャムルキの市図（1986.1.8）

溝口の追記：この土曜市はミルザプール郡最大の規模を誇り、1986年1月8日の調査時には1874人の露天商がいた。この市図を描くのに苦労したが、私自身の最高傑作で、石原潤先生の学位論文となった書物『定期市の研究－機能と構造－』名古屋大学出版会、1987年の276-277頁に掲載されている。その市図を載せておこう（図２）。常設店舗の位置はほぼ昔のままであるが、南の方の野菜売り、穀物売り、家禽類売りが激減したものと思われる。ルトファーの、鶏の生産が人口増加に追いついていない、という説明に対して、私は違う考えを持っている。人口増加に見合った、あるいはそれ以上の鶏生産がなされていると思う。村を歩いていると思いのほか養鶏場を見かけるし、26年前にはなかったのだが定期市の常設店舗が鶏飼育小屋になっているところも少なくない。食生活も鶏を食べることによって豊かになっているのではないかと思う。

2. ショッパラ朝市・バフリア日曜市

12月16日(日)

＜ショッパラ朝市＞

今日は、ショッパラ朝市とバフリア日曜市に行った。まずショッパラ朝市では、その日は独立記念日で祝日だったために、商人も客も少なかった。11人の買い手にインタビューし、無理を承知で、3人の女性に聞くことができた（表６）。

表６　ショッパラ朝市の買い手

No.	年齢	性別	バリ	職業	移動距離（分）	購入アイテム	購入金額	合計	頻度	備考
1	34	男	Gorai Nayapara	出稼ぎ休暇中	30	魚、グル、菓子、グリーンチリ	130, 130, 25, 20	305	毎日	
2	55	女	Shohagpara（賃貸）	工場労働者	10	魚、トマト、Corolla、大根	250, 10, 10, 12	282	毎日	
3	40	女	Shohagpara（賃貸）	工場労働者	10	ジャガイモ、カリフラワー、グリーンチリ、コリアンダー、魚	30, 20, 5, 5, 25	85	毎日	
4	33	女	Shohagpara（賃貸）	工場労働者	5	魚	45	45	毎日	
5	60	男	Gandhabyapara	ドカン経営	5	ココナッツ	50	50	毎日	
6	14	男	Gandhabyapara	市場野菜商人	5	鶏、魚、グリーンチリ	240, 100, 10	350	毎日	
7	50	男	Lalbiri	市場家具売り	12	鶏、米挽き、オイル	230, 30, 70	330	毎日	
8	43	男	Grui Nazirpara	バン運転手	7	ジャガイモ、グリーンチリ、魚	25, 15, 50	90	毎日	
9	30	男	Grui Nazirpara（賃貸）	工場労働者	7	タマネギ、にんにく、ジャガイモ、オイル、石けん、洗剤、ココナッツ油、ダル、スパイス	144, 35, 224, 280, 34, 70, 48, 140, 110	1085	毎日	ドカンで購入
10	48	男	Lalbiri	市場グル売り	10	ビーテルリーフ、グリーンチリ、ゴーヤ	25, 15, 15	55	毎日	
11	68	男	Zoyerpara	農民	5	ビーテルリーフ、ビーテルナッツ	15, 15	30	毎日	

彼女らは近くの工場につとめているようで、出稼ぎに来ているようだ。8時間勤務で、ある女性は3交替制（6am-2pm、10am-6pm、2pm-10pm）だそうだ。2人の女性は8amから勤務だそうで、賃貸の住宅に住んでいて、夫も工場で働いていたり、リキシャワラだったりであった。ルトファーの話では、経済的に苦しい人たちで仕事を求めてこちらに来ているらしい。このように工場労働者の女性は、早朝に朝市で買い物している。

一人ドカンで買い物している男性にインタビューしたが、1ヶ月分のまとめ買いだそうだ。この男性は夫婦で同じ工場に勤めているという。この男性を例外にすると、全般に朝市の買い手は、野菜と魚といった生鮮品を購入する傾向にあり、金額は少額になるよ

うである。

＜バフリア日曜市＞

バフリア日曜市では、ドカンと市場商人をチェックし、買い手にも12人インタビューした。市場は、表７のように、売り手の総数は1986年と比較して 184から267 に増えている。この理由については後ほどルトファーに聞いてみようと思っている。

買い手の方は、多くが農民なので、売り手でもあり買い手でもある状況だった。彼らは、バフリアだけでなく、デオハタ、ミルジャプール、ショッパラ市場で農産物を販売しているようだ。マスタードシードとジュートはミルジャプールで販売するという意見が多かった。

ひとり11歳の女の子にインタビューしたところ、父親や母親にお小遣いをもらって、ドカンや市場で買い物しているらしい。大人が多くて恥ずかしくないか、と聞いたところ、気にならないと言っていた。日本の女の子みたいに、友達同士で気楽に遊びにきているようだ。

表７　バフリア日曜市の売り手商人構成

	2012.12	1986.2
野菜	91	51
野菜苗	14	
果物	5	2
穀物	18	15
マスタードシード		29
ジュート		14
嗜好品	12	17
魚	22	3
肉・卵		1
木材		10
木材（燃料用）	57	
竹	13	13
家禽		
菓子	12	12
衣類	5	
文房具・雑貨		3
装飾品		
土器	6	
竹製品	1	
鎌など鍛冶製品	1	
燃料	1	3
薬		2
肥料		
履物	1	4
ロープ	1	
床屋	6	5
鍛冶屋		
仕立て屋		
電気製品修理		
金物修理		
靴なおし	1	
その他サービス		
	267	184

3. ハトバニガ・サークル・コーナー朝市とバルダム月曜市

12月17日(月)

＜ハトバンガ・サークル・コーナー朝市＞

今日は午前中にハトバンガ・サークル・コーナー朝市に行った。場所はハイウエイとハトバンガ・ショキプールへの道の交差点である。この辺りは工場が多くあり、特にNahid Cotton Mill（綿糸工場）は規模が大きいようで、インタビューによると2万人（内、女性が1万5千人）が働いているそうだ。そのため、多くの女性が出稼ぎに来ているようであり、賃貸住宅や工場内の宿舎で生活しているらしい。

ある既婚女性（25）は、夫と1才半の子どもと離れて単身で働いている。夫はドカン経営をしていて、今実家で子どもと生活してい

る。月給は3,800TKと言っていた。Nahid Cotton Millは、6am-2pm、2pm-10pm、10pm-6amの三交替制で、1週間毎に交替するそうだ。インタビューした女性は、2pmからの勤務の前に買い物に来たようである。

ほかのインタビューについては表８を参照して欲しい。

表８　ハトバンガ・サークル・コーナー朝市

No.	年齢	性別	バリ	職業	移動距離（分）	購入アイテム	購入金額	合計	頻度	備考
1		女2	Najirpara（賃貸）	工場労働者（姉妹）	30	ナス、ジャガイモ、カリフラワー	40, 30, 20	90	毎日	母親と娘、出稼ぎ（姉妹で同じ工場）
2	50	女	Danirpara	主婦	3	オイル、グル、グリーンチリ	100, 70, 10	180	2～3/週	夫は石工者
3	23	女	Danirpara	主婦	3	里芋	25	25	2～3/週	夫はリキシャワラ
4	30	男	Kamalpara	ドカン経営	10	ジャガイモ、エンドウ豆、グリーンチリ、大根、魚	30, 15, 10, 10, 150	215	毎日	シンガポールに出稼経験あり
5	25	女	Nahid Cotton Mill内	工場労働者	10	魚、タマネギ、エンドウ豆、ジャガイモ、グリーンチリ	20, 10, 10, 14, 7	61	毎日	単身出稼ぎ、月給3,800TK、夫と子どもは夫の実家で
6	24	女	Gorai Milgate（賃貸）	工場労働者	20	薬、魚、ビーテルリーフ、服	10, 100, 10, 50	270	代理	夫はレンガ工場、家で出稼ぎ、月給4,200TK
7	27	男	Hatbanga Circle Corner（賃貸）	工場労働者	3	魚、ジャガイモ、グリーンチリ、タマネギ、コリアンダー	210, 60, 15, 50, 10	345		妻の実家近くの賃貸居住、帰省中
8	30	男	MiminNagar	工場労働者	10	魚、カリフラワー、ジャガイモ、エンドウ豆、メジャー	120, 24, 26, 10, 350	530	2～3/週	月給7000TK
9	28	女	Cadet College近く	主婦	15	魚	100	100	1/週	夫は工場労働者、夫が忙しいときに
10	68	男	najirpara	無職	15	魚、エンドウ豆、ナス	150, 15, 17	182	2～3/週	息子は工場労働者、ドカン経営
11	38	男	Chandpur	工場労働者	10	ジャガイモ、魚	50, 50	100	2～3/週	父親が工場で働きたす、一家で移住

＜バルダム月曜市＞

午後は、ミルジャプールとバダルガータの中間にあるバルダム月曜市に行った。

1986年には125人の商人がいた市場であるが、現在は竹販売の数名しかいない状況で、ほぼ終了した市場のようだ。

その理由は、もともと川沿いの市場で、舟運で栄えたそうであるが、魚を養殖するため川にダムが造られ、船が寄り付けなくなった。加えて、ミルジャプールからバダルガータへの道が悪く、特に、ボンシー川を渡る橋が無いために、交通量も少ないそうだ。このように交通条件が悪いため、終了状態になっている。

３名の竹売り商人にインタビューした内容を表９にまとめた。明日は、午前中は休憩し、午後に一カ所市場に行く予定である。

表９　バルダム月曜市の売り手

No.	年齢	バリ	職業	農地	販売商品	価格	他の市	他の市での販売商品
1	60	Shitmundpur	農業	2acre	竹	120TK/1束（3本）	Chhitmamdpur、Rampur、Hatbanga	竹、米、野菜
2	60	Takiakadma	農業	0.5acre	竹	130TK/1束（2本）	Mirzapur、hatbanga、Takiakadma（朝市）	米、野菜、マスタードシー
3	32	Takiakadma	農業	3acre	竹	80TK/1束（2本）	Mirzapur、Badalgata、Takiakadma（朝市）	米、野菜

4. パックラ朝市

12月18日（火）

＜パックラ朝市＞

今日はパックラの朝市に行った。午後、サワリ近くの新市場Vatkuraに行ったが、市日を間違えて調査できなかった。残念である。

サワリでシャキールに会い（ロビンとベラルも一緒）、1986年以降にできた定期市の調査マップをもらった。これで、1986年以降できた新しい定期市について商人数を確認することができる。

ご存知の通りパックラは、ジャムルキの南側にある交通の要所のバザールである。

ルトファーによると朝市は15年前から始められたようだ。朝市はバザール奥の方にあり、当初はバザールの端だったが、現在ではドカンが囲むようになっている。

結構商人が集まっていて、朝市としては規模が大きいと思う。表10のように、今日は10名の買い手にインタビューした。

表10　パックラ朝市の買い手

No.	年齢	性別	バリ	職業	移動距離（分）	購入アイテム	購入金額	合計	頻度	備考
1	45	男	Pakulla	宝飾品店ワーカー	5	ナス、エンドウ豆、魚、オイル	40, 15, 50, 30	135	毎日	Pakulla Bazzarにあるドカンに勤務
2	70	女	Pakulla	主婦	5	魚、ダル、タマネギ、ジャガイモ、オイル、マスターシード油、ケロシン油	50, 40, 50, 30, 45, 60, 30	305	1～2/週	夫は死亡、3人の息子は家具職人、息子が忙しいので
3	70	男	Gunotia	農業労働者	15	大根、魚	10, 50	60	毎日	
4	55	男	Satiachura	魚売り（息子と）	10	ナス、ジャガイモ、エンドウ豆、葉もの野菜	15, 15, 15, 15	60	毎日	息子が毎日Shirajgong（ジョムナ川、養殖池多い）に魚を買付
5	50	男	Pakulla	農業労働者	10	エンドウ豆、ジャガイモ、ナス、グリーンチリ、魚	10, 25, 20, 10, 80	145	毎日	畑の生産物は自家消費、買い物はpakullaだけ
6	42	女	Mazalia	主婦	30	葉もの野菜、キャベツ、キューリ	15, 30, 25	60	1/週	Mazalia Hatでも買い物、夫は軍人でカタールで従業中
7	38	男	Satiachura	茶店経営	10	カリフラワー、ジャガイモ、タマゴ、グリーンチリ、ピーテルナッツ	42, 50, 270, 30, 5	397	2～3/日	茶店は4am-10pm、シンガポールで就業経験あり
8	70	男	Gunatia	宝飾品店ワーカー	20	魚、大根、グリーンチリ、ジャガイモ、エンドウ豆	40, 10, 10, 20, 10	90	毎日	2息子もワーカー、Gunatiaにはコルモカール、シャハ、バラモンがいる
9	35	女	Golli	主婦（未亡人）	20	魚、ナス、グリーンチリ、ジャガイモ、セーター、靴、カバン	150, 30, 10, 45, 420, 50, 30	735	1～2/週	夫が残した家に、夫の友人が経済的サポート、娘と買い物
10	50	男	Pakulla	農業労働者	15	ジャガイモ、data（茎と葉）	25, 50	75	毎日	

すべてに聞いた訳ではないが、近くに住んでいる人はほとんどパックラでしか買い物

しないようだ。ジャムルギで買い物する人はいなく、ジャムルギの商人数の減少は、パックラの朝市の影響が大きそうだ。さまざまな業種のドカンがあり、規模の大きな朝市もあるパックラは、周辺の人々だけでなく、マザリアなどの離れた人々も引きつけているようだ。

なお今日は3名の女性にインタビューしたが、未亡人だったり、息子達が忙しいなどの理由から、自分が買い物しなければならない状況のようだった。

5. バッカンダ朝市とクラリアッパラ水曜市

12月19日(水)

＜バッカンダ朝市とクラリアッパラ水曜市＞

今日は、クラリアッパラ水曜市に行った。1986年の調査では，クラリアッパラでは朝市が行われていることになっていたので、朝市と定期市の両方を見ようと、朝早く出かけた。9時半頃、クラリアッパラについたところ、朝市が行われていなかった。

ドカンの人に聞いてみると、15年前ほどに朝市がなくなったとのことだった。その代わりに、クラリアッパラから2kmほど戻ったところのバッカンダに朝市ができているとのことで、さっそく出かけてみた。

バッカンダは結構大きなバザールで、当日営業していたドカンが92もあった。

表11　バッカンダ朝市の買い手

No.	年齢	性別	パリ	職業	移動距離(分)	購入アイテム	購入金額	合計	頻度	備考
1	22	男	Bhabkhanda	農業	5	魚、ジャガイモ、里芋、カリフラワー、ビーテルナッツ	20, 30, 8, 30, 5	93	毎日	農地1acre、ジャムルギ・オハティで売る
2	62	男	Chamari Fateour	農業	30	タマネギ、グリーンチリ、レッドチリ	30, 15, 25	70	2～3/週	チャマリファテプール・クリアッパラでも買い物、農地0.5acre
3	70	男	Banail	ジュート・米卸売	10	タマネギ、グリーンチリ、砂糖、茶、ライターガス、タバコ	50, 15, 15, 18, 20, 20	138	毎日	村で買い付け、トレーダーが買いにくる
4	54	男	Banail	農業	5	data、ラオ、グリーンチリ	15, 35, 30	80	毎日	農地0.5acre
5	55	男	Nandarpur	農業	10	大根、カリフラワー	5, 15	20	毎日	農地0.5acre、生産物は自家消費
6	45	男	Banail	米卸売	10	大根、タマネギ、魚、塩、ターメリック	15, 25, 80, 15, 20	155	毎日	農村で買い付け、カリアクール・ダムライで売る
7	60	男	Banail	農業	15	カリフラワー、大根、魚、エンドウ豆	40, 20, 80, 40	180	2～3/日	農地2acre、ジャムルギ・オハティで売る
8	48	男	Kazahara	農業	15	グリーンチリ、塩、魚、牛えさ	15, 15, 100, 27	157	毎日	農地0.5acre、米は自家消費、マスターシードはBhabkhandaで販売
9	55	男	Bhabkhanda	農業	5	魚	20	20	2～3/日	農地0.5acre、すべて自家消費
10	12	男	Pachdana	学生	20	カリフラワー、オニオン、コリアンダー、魚	40, 10, 10, 150	210	毎日	父親はMahmodpurで米ミを経営、ドカンが遠いのこの少年がいつも買い物

最近、銀行（Agricultural bank）も立地し、BNPとアワミリーグの事務所もあり、この界隈の中心地になっているようだ。この場所は、パックラからクラリアッパラ、チャマリファテプール方面へ向かう道路と、カグティアからの道が交わるところで、交通の要所にあたる。ルトファーによると20年前には3つぐらいのドカンしかなかったが、ドカンが増

えていって朝市が行われるようになったそうだ。

クラリアッパラは運河沿いにある市場で、水運が中心だったときに栄えていた市場だったが、道路交通に移り変わるに従ってバッカンダに中心が移り変わっていったようだ。ルトファーは、”Bhabkhada is son of Kuraiappara.”と言っていた。

そして朝市で買い物している人にインタビューしたところ、表11のように、10人のうち7人が農民だった。やはり幹線道路から離れるに従って、農業が中心になるのだなと思った。バッカンダの周辺の人々は、ほとんどバッカンダで買い物しているようだ（3. バルダム月曜市とパックラ朝市、表12）。朝市の商人（10時）は、野菜19人、パン6人、魚7人（8時頃は20人程度）、スパイス3人、豆2人、チリ3人、雑貨1人、ミルク5人、服2人、jewelry1人、靴修理1人、果物2人、グル3人で、合計55人だった。

午後からクラリアッパラ水曜市に行った。

小学校の校庭では、床屋、竹売り、米商人に数名いて、奥の広場に入ると、野菜売りや魚売り、スパイス売りなどがいた。今年３月と同じ感じだった。ここでも買い手10名にインタビューした（表12）。クラリアッパラ市場は、他の市場より価格が安いようであり、中には遠くからわざわざ来ている人もいた。この界隈に住んでいる人々は、普段はバッカンダで買い物し、水曜日にはクラリアッパラに来る、という人が多かった。中には、同じ日に両方で買い物する人がいたが、クラリアッパラは安く帰るのでわざわざやってきた、とのことである。詳しくは表12を参照して欲しい。

表12　クラリアッパラ水曜市の買い手

No.	年齢	性別	バリ	職業	移動距離（分）	購入アイテム	購入金額	合計	頻度	備考
1	62	男	Kuraiappara	軍人（退職）	5	ナス、ジャガイモ、タマネギ、塩	35, 25, 50, 15	125	1/週	普段はBhabkhan朝市で
2	60	男	Deozani	隠居	30	大根、ジャガイモ、ダル、タマネギ	20, 25, 70, 90	205	1/週	普段はGolli朝市、の市場は安く手に入る
3	50	男	Kuraiappara	農業	10	魚、エンドウ豆、ジャガイモ、グル	80, 40, 20, 40	180	1/週	普段はBhabkhan朝市で
4	50	男	Kuraiappara	農業	10	魚、タマネギ、ジャガイモ、カリフラワー、グリーンチリ	80, 20, 20, 20, 15	155	1/週	普段はBhabkhan朝市で
5	50	男	Sutanari	農業労働者	30	カリフラワー、ジャガイモ、オイル、ケロシン油	10, 25, 20, 10, 80	145	1/週	時々Bhabkhanda市で
6	65	男	Bhabkhanda	グロイラー	15	バナナ、大根、ジャガイモ、カリフラワー	15, 10, 30, 25	80	1/週	普段はBhabkhan朝市で、この市場は安い
7	26	男	Soilzana	工場労働者（帰省中）	5	大根、カリフラワー、エンドウ豆	12, 30, 35	77		普段は父親が買い物
8	80	男	Chamali	農業	20	魚、カリフラワー	150, 30	180	1/週	普段はBhabkhan朝市で、モンドーカースト
9	63	男	Pashchamari	元教師（数学）	20	エンドウ豆、ジャガイモ、菓子	20, 30, 10	60	1/週	時々Bhabkhanda市で
10	65	男	Kawalipara	農業	6	ナス	30	30	1/週	普段はBhabkhan朝市で

明日はハルタル（＝大規模な反政府抗議活動および抗議ゼネスト）のようだ。

ハイウェイ沿いの市場は危険ということで、ガラマラ木曜市に行く予定にした。そのため、午前中はのんびりしようと思う。

12月20日（木）
＜ガラマラ木曜市＞
今日は、ガラマラに行った。
デオハタからバイクタクシーに乗り、バフリア市を過ぎて、川を渡り（ハリアに行った時に船に乗ったところ）、あぜ道をぬけて、到着した（約30分）。途中、マスタードシードがとてもきれいで、穏やかな農村風景が広がっていた。15時頃に到着したが、ちょうどピーク時で、とても賑やかだった。ルトファーによると1986年の頃と雰囲気が変わらないそうだ。ただドカンは増えていて、50軒以上あったように思う。
ガラマラはミルジャプール郡の南端にあるので、境界をこえたダンタラ（Dantara）が最寄りの中心地のようだ。ガラマラから約3km南に行くと到着するようで、大きなバザール（市場も）だそうだ。この辺りの農民はダンタラに出荷するという意見が多かった。
買い手であるが、全般として購入アイテム数が多かった。近くに市場が少ないので、依存度が高いように思われる。この辺りの農村では電気が無いのか、オイルを買う人が多かった。

今回は現地レポートはこれで終了である。溝口先生には以下のように伝えた。「これで調査は終了です。今日は、ダッカ（エレファントロード）へ戻ります。」